

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

大阪体育大学 体育学部は、教育研究上のもと、所定の期間在学の上、所定の単位を修得し、以下のような知識・技能・

【大阪体育大学 体育学部は、以下の力を修めた学生に学位を授与する】

- (1) 豊かな教養
 - ・学問を修めるための基盤となる力
 - ・多角的に物事を思考・判断する幅広い学識
- (2) 専門的な知識・技能
 - ・体育・スポーツ・健康に関する幅広い知識
 - ・体育・スポーツに関する基本的技能と実践的指導能力
 - ・体育・スポーツ・健康の特定領域における深い知識・技能
- (3) 調和のとれた人格
 - ・豊かな人間性
 - ・高い倫理観
 - ・体育・スポーツ・健康に関する専門家としての自覚と誇り
- (4) 社会に貢献できる力
 - ・スポーツ文化の向上に貢献できる
 - ・スポーツ振興に貢献できる
 - ・健康づくりに貢献できる地域社会に貢献できる
 - ・人びとの生きがいをづくりに貢献できる
- (5) 能動的・自立的行動力
 - ・課題探求能力と課題解決能力
 - ・コミュニケーション能力
 - ・情報の収集・分析・伝達能力
 - ・職業的自立能力

【大阪体育大学 教育学部は、以下の力を修めた学生に学位を授与する】

- (1) 豊かな教養と広い見識
 - ・学問を修めるための基礎となる力
 - ・多角的に物事を思考・判断する幅広い学識
 - ・社会人としての豊かな教養
- (2) 教職・保育職に必要な基礎的・専門的知識と技能
 - ・教育・保育に関する幅広い知識
 - ・教職・保育職に関する基礎的・専門的知識
 - ・教育指導・保育方法に関する専門的な知識と技能
- (3) 乳幼児・児童・生徒の理解を踏まえ、実践的に指導・支援できる力
 - ・授業や保育を適切に計画し、実践していくことのできる力
 - ・実践の振り返りを通して不断に改善を進める力
 - ・乳幼児・児童・生徒の発達的特質や課題を理解し、適切に指導・支援できる力

- ・学級経営・生活指導・クラス運営・インクルーシブな教育や保育等を実践できる指導力
- (4) 教育・保育への熱意と使命感、責任感、学び続ける意欲
- ・乳幼児・児童・生徒への愛情と教育・保育への熱意
 - ・乳幼児・児童・生徒の成長にかかわる教職・保育職としての使命感、責任感
 - ・自らの指導力の向上に向けて不断に研修に努める態度
 - ・教育・保育の新しい動きや課題について意欲的に学び続ける姿勢
- (5) 豊かな人間性と社会性、倫理観
- ・人間についての深い洞察と人権意識
 - ・組織の一員としての社会性やコミュニケーション能力
 - ・高い倫理観と規範意識

【大阪体育大学大学院は、以下を修めた学生に学位を授与する】

1. 博士前期課程

- (1) 研究科の定める期間在学し、研究科が教育と研究の理念や目的に沿って設定した授業科目を履修して、基準となる単位数以上を修得し、課程を修了することが学位授与の要件である。課程修了に当たっては、研究科が行う修士論文の審査及び試験に合格することとする。なお、スポーツ実践科学プログラムを選択した場合、修士論文の審査及び最終試験を、特定の課題についての研究成果の審査及び最終試験に代えることができる。
- (2) 幅広い知識に裏打ちされた専門領域における研究能力と、高度な専門性を必要とする職業を担うための優れた能力を身につけているかどうか、課程修了の基準である。
- (3) 研究が、高い倫理性と強固な責任感をもって実施され、人類の平和と安寧に貢献できるものとなっているかも、大学院課程修了の際に考慮されるべき重要な点である。
- (4) 教育研究上の目的に応じた分野固有の修得すべき能力は、以下のとおりである。

◎文化・社会科学領域

①保健・体育科教育学分野

保健体育の授業づくりに必要な専門知識を理解し、健康で豊かなスポーツライフの実現に向けた授業を遂行できる実践的指導力を修得する。

②スポーツ史・哲学分野

スポーツに関する歴史的・哲学的な課題を考究するための知識や方法を系統立てて身につけ、現代のスポーツについて歴史的・哲学的な観点から意味づけ理解できる能力を修得する。

③スポーツ社会学分野

スポーツ（身体活動・運動を含む）に関する社会的な課題を考究するための理論や方法を理解し、それぞれの研究課題について社会的な観点から説明および解釈できる能力を修得する。

④スポーツマネジメント分野

スポーツ・アウトドア領域にある課題や、人々のスポーツ行動を理解し、スポーツ

マネジメントに関する高度な専門性を必要とする現場に不可欠な能力や研究を遂行する能力を修得する。

⑤スポーツ心理学分野

体育・スポーツや身体活動における心と身体をつなかりを理解し、対象者の運動能力あるいは競技力の向上、さらにウエルビーイングに役立つ心理面の指導ができる能力を修得する。

⑥アダプテッド・スポーツ分野

障がいや老化、病弱などに伴うさまざまな機能障害や行動障害を理解し、それぞれの対象者のスポーツや身体活動の目的と環境に応じた適切な行動支援や指導方法について考え実践できる能力を修得する。

◎身体運動・コーチ科学領域

①バイオメカニクス分野

生体や身体運動を動作・力学的観点から理解し、バイオメカニクスに関する高度な専門性を活かした実践活動を遂行する能力を修得する。

②教授学（指導方法学）分野

学校の体育や運動部活動、さらには地域のスポーツ活動におけるすぐれた指導のあり方を実践教育から理解し、教授学（指導方法学）に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な能力や研究を遂行する能力を修得する。

◎健康・医科学領域

①スポーツ生理学分野

運動による身体機能の変化を理解し、スポーツ生理学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な能力や研究を遂行する能力を修得する。

②スポーツ医学分野

競技や健康増進のための運動が身体に及ぼす影響を理解し、スポーツ医学に関する高度な専門性を必要とする臨床スポーツ医学の現場において必要な能力を修得する。

③スポーツ栄養学分野

さまざまな身体活動時の生理・代謝を理解し、それぞれの場面や目的に応じた適切な栄養・食事について考え実践できる能力を修得する。

2. 博士後期課程

(1) 研究科の定める期間在学して、研究科の教育と研究の理念や目的に沿った研究指導を受け、かつ所定年限内に研究科が行う博士論文の審査及び試験に合格し、課程を修了することが学位授与の要件である。

(2) 研究者として自立して活動し、また高度な専門業務に従事するために必要な能力とその基盤となる学識を身につけているかどうか、課程修了の基準である。

(3) 研究が、高い倫理性と強固な責任感をもって実施され、人類の平和と安寧に貢献できるものとなっているかも、大学院課程修了の際に考慮されるべき重要な点である。

(4) 教育研究上の目的に応じた分野固有の修得すべき能力は、以下のとおりである。

◎文化・社会科学領域

①スポーツマネジメント分野

スポーツ組織や人々のスポーツ行動を理解し、それぞれの領域における高度な専門知識に基づく研究を遂行する能力を修得する。

②スポーツ心理学分野

体育・スポーツや身体活動における心と身体をつなぐを理解し、高度な専門知識に基づき、体育・スポーツや身体活動を通じた人間理解につながる心理学研究を遂行する能力を修得する。

◎身体運動・コーチ科学領域

①バイオメカニクス分野

生体や身体運動に関する構造や力学的知識を理解し、バイオメカニクスに関する高度な専門知識に基づく研究を遂行する能力を修得する。

◎健康・医科学領域

①スポーツ生理学分野

運動による身体機能の変化を理解し、スポーツ生理学に関する高度な専門知識に基づく斬新な研究を遂行する能力を修得する。

②スポーツ医学分野

競技や健康増進のための運動が身体に及ぼす影響を理解し、スポーツ医学に関する高度な専門知識に基づく独創的な研究を遂行する能力を修得する。

③スポーツ栄養学分野

さまざまな身体活動時の生理・代謝を理解し、スポーツ栄養学に関する高度な専門知識に基づく研究を遂行する能力を修得する。